





Newspaper in Education

# 静岡新聞で学ぼう

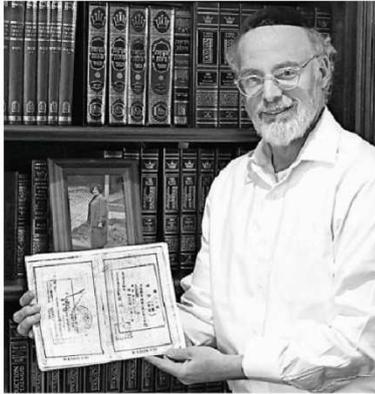


2020年  
7月15日朝刊

記事を読んで、問い  
に答えなさい。

解答例

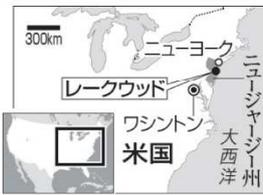
## 故建川駐ソ大使「命のビザ」発見



ビザの写しを見せるアロンさん  
＝6月、米レークウッド（共同）

第2次大戦中の1941年3月に、当時の駐ソ連大使、故建川美次（1880～1945年）がナチス・ドイツの迫害から逃れたユダヤ人難民に発給した「命のビザ（査証）」の写しを、米東部ニュージャージー州在住の難民の遺族が保管していることが14日分かった。建川による渡航証明書

### 第2次大戦 ユダヤ難民遺族 米で保管



信に故人の証言や当時の資料を明らかにした。それによると41年3月8日夜、リスシエルさんは単独でモスクワの日本大使館を訪問。同館前にいた多数の難民は入館を許されなかったが、英語で「約束がある」と守衛に言う通された。館内では「絹の着物のような服」を着た男性が面会し「日本に行きたい」と伝えると「かなり考えた後、ビザに署名、発給されたという。」

建川美次 1880年新潟市生まれ。陸軍士官学校を経て日露戦争に従軍、偵察活動で功績を上げ、ベストセラー小説「敵中横断三百里」のモデルとされる。陸軍中將の後、1940～42年、駐ソ連大使。41年4月に日ソ中立条約署名。同年3月7日、松岡洋右外相から難民へのビザ発給を禁じる通達を受けるが、その後も渡航証明の形で書類を出した。数百人の難民がビザか渡航証明を受けたとみられる。（レークウッド共同）

リスシエルさんの五男アロンさん(56)は「守衛は母を難民と思わなかったのだろう」と説明。「母は何回もこの話をして建川に感謝していた」と語る。リスシエルさんはこの後、敦賀（福井県）、神戸、上海などを経て47年に米国に入国。義父、夫と共にニュージャージー州レークウッドに正統派ユダヤ教の大学を設立、発展させた。外交官の故根井三郎(1902～92年)が発見した。アロンさんが理事長の大学は正統派ユダヤ教の世界的拠点となり、レークウッドは大学町として急発展した。「ビザがなければ町もなかった」とアロンさんは話している。（レークウッド共同）

- ①「命のビザ」はどのような人に対して発給したものか。（ナチス・ドイツの迫害から逃れたユダヤ人難民）
- ②建川美次さん以外に、「命のビザ」で知られている人の名を書きなさい。（杉浦千畝、根井(三郎)）
- ③このビザにより、17歳のリスシエルさんはどこに入国することができたか。（日本(その後米国)）
- ④記事の最後に「ビザがなければ町もなかった」とあるが、これはどのようなことを指しているのか。記事中の関係する部分に線を引きなさい。

4段7行目「リスシエルさんは～大学を設立、発展させた。」  
5段12行目「アロンさんが～大学町として急発展した。」

年 組 名前

作問者：静岡新聞NIEコーディネーター 矢沢和宏

(中学校～高校／道徳、総合、社会)